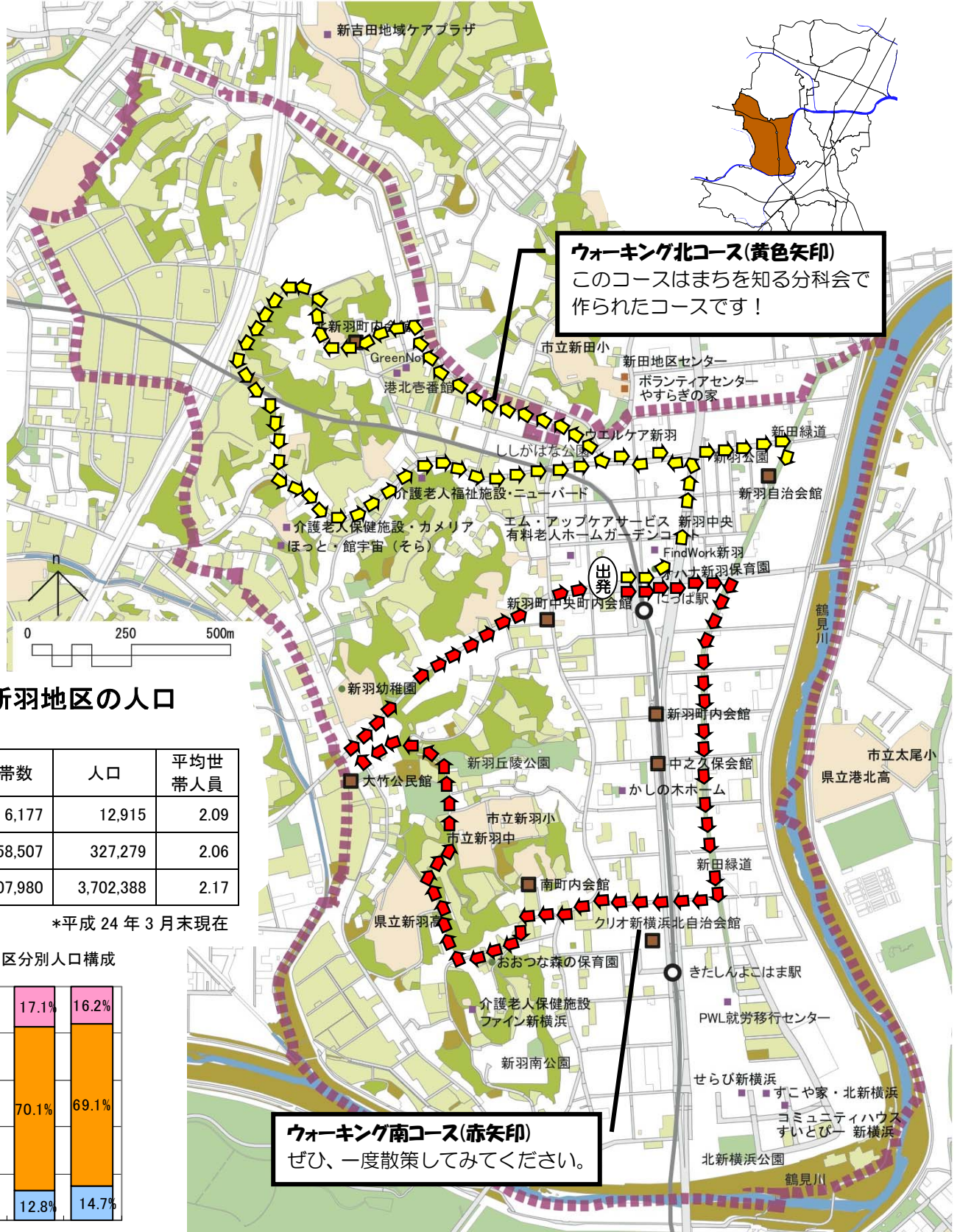


「和、輪、話」のまち につば

平和・福祉の「和」、みんなが手をつなぐ「輪」、みんなが話し合う「話」



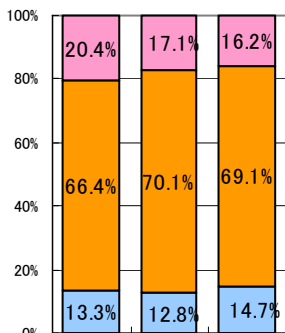
1 新羽地区の人口

世帯数と人口

	世帯数	人口	平均世帯人員
新羽地区	6,177	12,915	2.09
港北区	158,507	327,279	2.06
横浜市	1,707,980	3,702,388	2.17

*平成 24 年 3 月末現在

年齢3区分別人口構成



横浜市 港北区 新羽地区

■ 14歳以下 ■ 15~64歳 ■ 65歳以上

* 横浜市建築局都市計画基本図データにより作成
* 横浜市地形図複製承認番号 平 24 建都計第 9006 号

2 わたしたちのまちの特色

新羽地区は、新羽町、北新横浜をその範囲にしています。総人口は12,915人(平成24年3月末現在)、5年前に比べて354人増加しています。当地区は高齢者よりも、年少人口の割合が高く、区内でも2番目となっています。一方、高齢者は5年前に比べ3.4%、約486人の増加となり高齢化が進んでいます。

新羽地区には8つの町内会があります。近年、工場や倉庫が多かった地下鉄沿線にマンションが新設され、若者世代の増加が目立ってきています。一方で、町内会加入率は低下してきており、加入促進が今後の課題となっています。

新羽駅、北新横浜駅周辺に医療施設ができて、具合が悪くなっても地元ですぐに診察してもらえるようになったことは高齢化が進む中での安心材料です。一方、幼稚園は一つしかなく他地区の施設に頼る現状です。

また、新羽地区には、福祉保健の拠点となる施設がありません。地域ケアプラザ、地区センターの建設は地域の住民の切なる要望です。

緑道公園が北新横浜から新吉田まで整備が完了しました。又、地区の東側、南側に鶴見川が流れています。これらの資源を大いに活用していきたいものです。

3 これまでの頑張り

第1期地域福祉保健計画にもとづき、新羽地区では「パワーアップにつば」「竹の子につば」「たんぼぼにつば」などの活動を推進してきました。

第2期計画の推進にあたり、推進委員会を開催し、第1期計画の(1)交流、(2)情報・相談、(3)場所・拠点、(4)ボランティア・担い手、(5)安心・安全の5項目について振り返りを行いました。その結果、テーマに基づいた分科会を組織し、以下の活動を行いました。

(1) 交流(異世代交流分科会)

23年度の活動をふまえ、夏の「流しそうめん」と年2回開催の「につばウォーキング」は24年度以降も継続して実施します。より多くの世代の人たちが楽しく交流できる場を、他団体の協力を得て提供していきたいと思ひます。また、地域既存のグループの活動をサポートし、異世代間の交流をさらに活発化したいと思ひます。



ウォーキングの様子



新羽地区イベントカレンダー

(2) 情報・相談(情報の共有化分科会)

「につば」2011~2012年イベントカレンダー(みんなの参加できるもの)を5,000部印刷し、町内会員宅に全戸配布しました。新住民用に掲示や不動産会社を通して配布しました。次回「アンケート」を取り、町のニーズを集約して「カレンダー」に反映させます。今後も継続して参ります。

(3) 場・拠点(まちを知る分科会)

新羽の「まち」を知ることから始まる。そのため、1) 町内の探検コース(散策コース)を南コースと北コースに分け、指定。2) 新羽町の地図に記入して探検していただく。3) 新羽町の見どころの冊子をつくる。以上3項目について、継続して進めていきます。



新羽地区ウォーキングマップ

(4) ボランティア・担い手

担い手の人材不足を解消するため、活動のPRの方法等の検討が必要です。

(5) 安心・安全

防犯灯のLED化の推進、学援隊との連携による学童の見守り、新入生への黄色い帽子の贈呈は今後も続けていきます。

4 これから目指していく姿

新羽地区 6,177 世帯の絆をより強くし、「思いやりと花と緑のまちづくり」のために、次の 4 点を基本テーマとして、地域福祉の取り組みを進めます。

- (1) 災害時に援護が必要な人の把握を進めより充実した活動にしていく。
- (2) 地域の福祉活動の情報の共有や周知の徹底を図る。
- (3) 異世代交流を、より活発にしていく。
- (4) 「新羽」のまちを知る活動を進める。

5 わたしたちのまちの取組

「ひろがる」、「つながる」、「とどく」をキーワードに、新羽の目指していく姿の実現に向けた取り組みを進めます。

情) 情報の共有や周知 異) 異世代の交流 町) まちを知る

キーワード	取組		
	目標	具体策	
ひろがる	理解	異) 地域にある活動グループの周知 異) 役員相互の連絡協力ができる体制づくり 町) 町を愛してもらい、町の現状を知る、町の地理を知る	異) 町会定例会で、役員にお願いする 異) グループに窓口をつくり、その団体の連絡網を活用して情報を伝える 町) 住民に見どころの多い「にっば」を PR する
	担い手	情) 人材募集の PR の仕方を工夫し、60 歳以上の人達にも活躍してもらい 異) 趣味等の、同好会、クラブなどの掘り起こし 町) 町内会各役員（地区社協評議員）及び有志を中心に担い手を確保する	情) 町内会役員会等、各種委員会にて PR する 異) 町会を通じて聞き取り調査をする
つながる	知る	情) 青少年指導員、スポーツ推進委員、町会、子ども会、民生委員児童委員、ボランティア団体それぞれの活動をつなげる 情) 小中学校との連携 異) 様々な世代が参加してまちを歩き、まちを知る 町) 名所を巡るとともに、福祉施設や避難場所を覚える	情) 各団体と連携して、新羽地区の催し物カレンダーを作って配布する 情) 学校・家庭・地域連絡協議会に積極的に参加する 異) 「パワーアップにっば」と老人会がハイキングを計画する 町) ハイキング、ウォーキングのルートや見所のマップづくり
	活動	異) 青少年指導員、スポーツ推進委員、子ども会の三本柱の強化 異) グループの催し物などに他のグループが参加し協力するようにする 異) 「ガッツにっば」の活動の活発化 町) 様々な世代が利用できる山間部と緑道の散策ルートをつくる	異) 青少年指導員、スポーツ推進委員、子ども会の活用をはかる 異) 「竹の子にっば」の芋煮会に「たんぼぼにっば」が参加する 異) 「たんぼぼにっば」を老人会が手伝う 異) 様々な世代が参加できるソーメン流しなどの催し物を定例化する 町) ハイキング、ウォーキングのルートや見所のマップづくり

キーワード	取組	
	目標	具体策
ふりかへ	情報	<p>情) すべての人にすべての情報を届けるのではなく、必要な人に必要な情報が届くようにする</p> <p>異) 地域の年間行事予定をつくる</p> <p>町) 野菜や果物を直販しているところを知りたい、伝えたい</p> <p>町) 鶴見川周辺にある資源をいかす</p>
	早期発見	<p>情) 老人会や敬老会行事を通じて高齢者や独居者の情報把握をすすめる。行政との連携もすすめる。</p> <p>情) パワーアップにつば、老人会、民生委員から情報を得る</p>

6 ふり返りの仕方

取り組み項目の進捗については、年度初めの4月をめぐりに推進委員会を開催し、分科会ごとに振り返りを行います。推進委員会では、各分科会の達成度合いを確認し、次年度の活動の修正を行っていきます。また、地区社協の総会で活動報告を行うこととします。

7 最後に



地域福祉保健計画の立案にあたって、準備委員会を立ち上げて方向を決め、策定委員会での検討へと進みました。策定委員会で今後の進め方を検討した結果、地区社協評議員会を開催し、新羽町を北、中、南地区にわけ、現在行われていることのリストアップまた、今後必要と思われること（課題）の洗い出しを行いました。

次に、評議員の中から各団体の責任者を中心に人選し、実行委員会を作り4つの基本テーマに対応した分科会を組織しました。

第1期地域福祉保健計画では、新羽地区支えあい連絡会で計画を推進してきましたが、第2期の計画では、みなさんの協力・支援を得ながら、実行委員会が責任をもって推進していきます。

なお、平成20年度には、「災害時要援護者支援事業」に取り組み、災害時に援護が必要な人の把握や支援方法について検討をすすめました。

これから目指していく姿の取り組み(1)については、個人情報の扱いについて十分に留意して取り組むものとし、『「和、輪、話」のまち につば』から独立した地域の取り組みとして並行して展開します。

計画づくりに参加した組織・団体

新羽町連合町内会、新羽地区社会福祉協議会（地区社協）、新羽地区民生委員児童委員協議会、保護司会、保健活動推進委員会、パワーアップにつば、竹の子につば、たんぼぼにつば、大竹シニアクラブ、新羽町連合子ども会（子ども会）、青少年指導員、スポーツ推進委員